

第24回タウンミーティングの意見交換内容について

■日 時：平成30年2月6日（火）午後7時～8時30分

■場 所：西部公民館 ホール

■参加者：熊本市教育委員会（遠藤教育長、森委員、泉委員、出川委員、小屋松委員、西山委員）、市内在住者（46名）

No.	質問・提案・要望等	回答	担当課
1	・（避難所となる）体育館老朽化に伴う立替の計画について	<p>体育館の建替については、建設年度が古い建物から段階的に着手しており、現在は、昭和40年代に建てられた体育館の建替事業を行っているところである。建替は、事業費が膨大で、予算化や国の補助採択が厳しいこともあり、複数の学校を同時に行うことは難しい現状にある。そのようなことから、事業費の削減や平準化を図るため、現在、長寿命化計画の策定に取り組んでいる。</p> <p>今後は、長寿命化計画に基づき、建替だけでなく、大規模改修工事などの手法も取り入れながら、取り組んでいきたい。＜教育委員＞</p> <p>本市では、熊本地震発災前のH25年度末までに、全小中学校の校舎と体育館の構造体の耐震化を実施し、天井材等の非構造部材の補強も行った。震度7の地震が1回では大きな被害はなかったが、震度7の2回の発生は想定されていなかった。耐震化により倒壊は免れた。</p> <p>学校施設の改修等は、優先度の高さで目標を設定している。耐震化の次に近年ではエアコン設置に重点的に取り組んできたため、体育館の改修校数は以前よりも少なくなっているが、ご理解いただきたい。＜教育委員＞</p>	施設課
2	・避難所でのリーダーシップについて 避難所でのリーダーシップをとる人が決められているのか。	<p>本市では熊本地震の課題・経験を踏まえ、避難所近隣に住む職員を「避難所担当職員」として予め配置し、発災時の特に施設管理者がいない時間帯における避難所開設や避難状況等の情報収集の強化を図っている。</p> <p>指定避難所では、避難が必要となった市民等が多数生活を共にするため、避難所におけるルールづくりや良好な生活環境の確保を行う必要がある。</p> <p>そのため、平常時から「地域の避難所の活用方法」、「情報共有」、「物資の配布」などが円滑に行われるように、小学校区ごとに、「地域（校区自治協等）」、「市職員（区職員、避難所担当職員）」、「施設管理者（校長先生）」などから構成する「校区防災連絡会」を設立する。</p> <p>また、「校区防災連絡会」が中心となって、指定避難所ごとに「地域（校区自治協等）」、「避難所担当職員」、「施設管理者」による「避難所運営委員会」を立ち上げ、委員長を中心に、「初動対応」や「地域団体・避難所担当職員・施設管理者の役割」などについて事前協議し、その協議事項を地域内で共有することとしている。</p> <p>避難所でのリーダーを決めておくことも一つの方法であると考えますが、災害時には学校と行政と地域が事前に協議し、協力することが必要不可欠になると考えている。＜教育委員＞</p>	危機管理防災総室
3	・生徒の防災意識を高める教育について 防災副読本「つなぐ」はどのような内容か。二次災害等で起こる子どもの心のケアを入れられないか。災害を経験した子どもは、いろいろなモノをかかえているのでは？「つなぐ」をみんなで活用できるようにすれば良い。	<p>本年度、各学校では、学校の実態に応じた防災教育年間指導計画を作成している。その計画をもとに、次年度から本格的に防災教育を行うことができるように、現在、熊本市防災教育副読本の作成を進めている。副読本は小学校低・中・高、中学校の4分冊で作成し、9年間の学びのつながりを見据え、また、教科を横断して活用できるものとなっている。教科学習の中で熊本地震の事例を扱ったこの副読本を用いて、丁寧な防災意識を高める学習を行っていく。＜教育委員＞</p> <p>子どもたちの心のケアについては、十分考慮されている。副読本「つなぐ」は学校に据え置いて活用する。＜教育委員＞</p>	指導課
4	・家庭での防災教育について 保育園では、火災訓練と避難訓練しかしてなかった。今はどうか？防災教育は、家庭でも重要。家庭で行ううえで、有効な情報は何かないだろうか。	<p>次年度から本格的に防災教育を行うことができるように、現在、熊本市防災教育副読本の作成を進めている。副読本は学校据え置きを前提に作成しているため、家庭に持ち帰っての学習は難しいが、副読本を使った学習の中には、家庭と連携する教材もあり、授業の様子などは学校からも各通信等を通してお知らせしたいと考える。また、今後は副読本の内容等を、何らかの形で家庭にお伝えできるよう検討していきたい。</p> <p>地学現象を理科で中学校から学んでおくことが大切。防災も地域の特性に応じたものを準備すべき。普段からどこが危険かを認識しておく。この地域は地盤が緩く、少しの揺れでも家具を固定する等々の準備は必要。＜教育委員＞</p>	指導課

No.	質問・提案・要望等	回答	担当課
5	<p>・防災教育について</p> <p>学校の安全は多岐にわたっている。地域や家庭が学校教育にどう関わっていくかが大切である。防災に特化したコミュニティ・スクールを導入してみてもどうか。</p>	<p>地域での防災教育は重要である。地域において、地域の知恵を活かした防災教育を実施してほしい。＜教育委員＞</p> <p>地域と校区防災連絡会において、防災に対する取組が進んできている。＜教育長＞</p>	指導課
6	<p>・学校の統合後の空調整備</p> <p>統合後の学校にはエアコンはあるのか。</p>	<p>中学校の空調設備工事はH28年度に完了した。小学校はH29年度に前期と後期に分けて半数ずつ工事を行っている。全ての小学校にエアコンを設置する。＜事務局＞</p>	施設課
7	<p>・学力の状況</p> <p>本市の子どもの学力は、高いのか低いのか。</p>	<p>全国の標準値50を少し上回っている。他の政令指定都市と比較しても、真ん中より少し上に位置している。学力は同じ学校でも、学年によっても異なる。＜教育長＞</p> <p>近年では、子どもの学力は秋田県や福井県が上位である。横浜市と千葉市を視察し、先進的な英語教育について調査を行った。過度な指導により子どもたちの負担にならないようにしたい。＜教育委員＞</p> <p>熊本市の子どもは、知識に関する問題の正答率が高いが、知識を実生活の場面に活用する力が弱い。活用力が高まるような授業をするよう学校へ指導しており、しっかりと取り組んでいきたい。＜事務局＞</p> <p>子どもの生活と学力に関する調査を文部科学省が実施している。朝食を毎日食べている子や、携帯・スマホの利用時間が短い子は学力が高い傾向にある。単に成績が上か下かではなくなっている。＜教育委員＞</p>	指導課
8	<p>・部活動について</p> <p>避難所生活の中で精神力の強さが大事だと感じた。精神力は授業だけではなく、部活動でも鍛えられる。運動部活動を一度社会体育へ移行した場合、元の学校での部活動に戻せるのか。</p> <p>小学校の運動部活動の社会体育化の流れは、中学校の部活動にも影響するのか。</p> <p>社会体育に移行すると集団生活能力が落ち、中学校での教員の負担が増すのではないのか。今も、競技種目数が小学校と中学校では全然違う。</p>	<p>本市では、全ての小学校が社会体育化するわけではなく、各校の状況に応じて各小学校において決定する。社会体育への全面移行は熊本県の話である。＜事務局＞</p> <p>一部では部活動が過熱化し、練習時間が長く休養がとれない状況である。全国的には指針がないところもあるため、国はまず指針を作ることとしている。</p> <p>熊本市は部活動の指針を定めており、毎月第一日曜は部活をしない日としている。子どもたちにとって良い環境でやっていきたい。</p> <p>現時点では、本市では中学校の運動部活動の社会体育化は考えていない。ただ、過熱化、勝利至上主義があるのも事実であるため、指針の遵守を徹底していきたい。＜事務局＞</p> <p>熊本市では一律に社会体育化してはいない。一度、社会体育化した後に部活動に戻せるかというのはなかなか難しい。社会体育へ移行するなら、きちんと検討した上での移行となる。全国的にみて、小学校で部活動があるのは珍しい。＜教育長＞</p> <p>学校で子どもたちをしっかりと面倒みてほしい保護者の気持ちはわかる。ただ、教員の長時間労働の実態も明らかになっており、対策が必要である。＜教育委員＞</p>	健康教育課
9	<p>・三和中での大型車輛の出入りについて</p> <p>三和中学校には大型のバスやトラックが入らない。</p>	<p>住宅街の中にある学校など、出入口が狭いところも多い。大型車両が入る学校のほうが少ないのではないのか。まちづくりの問題もあると思う。＜教育長＞</p>	—
10	<p>【要望事項】</p> <p>同学年で同教科なのに、教える教員によって学習内容が異なっているように感じる。さらに今後、大学入試が変更され思考力を問う問題が増えるが、受験に打ち勝つような指導をしてほしい。受験となると学校の授業だけでは難しいのではないかと感じている</p>	<p>大学での入学試験の選考に携わっているが、入試で見るのは、受験生の意欲である。＜教育委員＞</p>	指導課
11	<p>【要望事項】</p> <p>津波発生時の避難先となる裏山への道路整備を要望する。</p>	<p>道路を所管する部署へ伝えたい。＜教育長＞</p>	—